

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会 第22回会議

日時：令和7年10月2日（木）19:00～
場所：函館市医師会病院 5階講堂

【次第】

1 開 会

2 議 事

○報告事項

1. 令和7年度 多職種連携研修計画 進捗状況（資料1, 2）
2. 研修情報の一元化と提供について（資料3）

○協議事項

1. 第10回 函館市医療・介護連携多職種研修会について
(資料4, 5, 6)
 - ・グループワークの進め方

3 そ の 他

4 閉 会

【配付資料】

資料1：報告事項

資料2：令和7年度 多職種連携研修実績および予定表

資料3：ホームページ上で掲載した研修情報一覧（令和7年4月～令和7年9月）

資料4：研修概要書

資料5：タイムテーブル（案）

資料6：役割・グループワークの流れについて（案）

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会
第22回会議 出席者名簿

※★…部会長および副部会長 ○…幹事

(敬称略)

分 野	所属団体	氏 名	勤務先等
介 護	公益社団法人 函館市医師会	○幹事 花輪 拓哉	函館市医療・介護連携支援センター
	一般社団法人 函館歯科医師会	川村 曜補	カワムラ歯科クリニック
	一般社団法人 函館薬剤師会	水越 英通	(株)はこだて調剤薬局昭和店
	公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	奴賀 陽子 ※欠席	社会医療法人函館博栄会 函館渡辺病院
	道南在宅ケア研究会	★副部会長 川口 篤也	医療法人道南労働者医療協会 函館稜北病院
	函館地域医療連携実務者協議会	橋浦 大希	函館五稜郭病院
	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部	★部会長 阿部 綾子	社会医療法人函館脳神経外科 函館脳神経外科病院
	北海道柔道整復師会函館ブロック	室田 多哉	室田整骨院
	函館鍼灸マッサージ師連絡協議会	益井 基	益井東洋治療院
医 療	函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	宮城 智美	函館脳神経外科指定居宅介護支援事業所
	函館市地域包括支援センター連絡協議会	京谷 佳子	函館市地域包括支援センター ゆのかわ
	函館市訪問リハビリテーション連絡協議会	山上 雄大	函館おしま病院 訪問リハビリ
	道南訪問看護ステーション連絡協議会	白川 直子	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 在宅療養支援室 訪問看護係
	道南地区老人福祉施設協議会	齋藤 槟史	特別養護老人ホーム シンフォニー

○報告事項

1. 令和7年度 多職種連携研修計画 進捗状況（資料2）

(1) 相互理解の促進

①医療関係者向け研修

共 催：ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター

日時・場所・参加人数：

(ア) 令和7年5月22日（木）17：30～18：30 参加人数：37名

函館五稜郭病院

(イ) 令和7年8月26日（火）17：30～18：30 参加人数：32名

函館医療センター

(ウ) 令和8年2月頃予定

函館市医師会病院

テ－マ：「退院後、施設でこんな生活をしています

～介護老人保健施設、グループホーム編～」

対 象：函館市、北斗市、七飯町の医療・介護関係者

講 師：介護老人保健施設グランドサン亀田 支援相談員 甲谷 辰徳 様

事務長 佐々木 誠 様

グループホームにしほり ホーム長 戸館 康秀 様

②介護関係者向け研修

共 催：ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター

日時・場所・参加人数：

(ア) 令和7年6月12日（木）18：30～19：30 参加人数：106名

函館競輪場テレシアター

(イ) 令和7年8月21日（木）18：30～19：30 参加人数：44名

七飯町文化センター

(ウ) 令和8年2月頃予定

函館競輪場テレシアター

テ－マ：「回復期機能をもった病床のある病院の事情について

～思いやりのある連携～」

対 象：函館市、北斗市、七飯町の医療・介護関係者

講 師：函館稜北病院 回復期病棟退院支援チームマネージャー

理学療法士 大渕 裕 様

高橋病院 総合支援センター 社会福祉士 小林 陽平 様

③オープンカンファレンス

日 時：未定

場 所：未定

④研修会等コーディネート

各関係団体窓口一覧の更新 令和7年9月1日更新内容掲載済み

(2) 連携強化

①看取り＆連携強化

「第10回函館市医療・介護連携多職種研修会」

日 時：令和7年10月18日（土）14：00～17：00 ※予定

場 所：函館国際ホテル

テー マ：「病院・在宅・施設の立場から考える

～在宅（自宅・施設）生活ムリだよねの壁を越えてみませんか？～」

目的：在宅生活の支援を検討する上で弊害となっている地域の壁（課題）を多職種で出し合い共有したうえで、本人の想いを叶えるチーム支援力の向上、在宅生活の限界点を引き上げる可能性について共に考えることを目的とする。

対 象：函館市・北斗市・七飯町の医療・介護関係者

座 長：函館稜北病院 副院長 総合診療科科長 川口 篤也 先生

内 容：・講演

訪問看護ステーションオハナ 管理者 高畠 智子 様

函館中央病院 副師長 退院支援看護師 奥山 ちどり 様

訪問介護ステーション輪 管理者 酒井 雅子 様

亀田病院 診療部長 清水 平 先生

・グループワーク

・意見交換・質疑応答

定 員：300名（グループワーク参加240名、聴講のみ60名）

②看取り

「令和7年度 函館市医療・介護連携『在宅看取り研修会』」

共 催：6連協、函館市医師会在宅医療医会、

ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター

日 時：令和7年7月18日（金）19：00～20：00

場 所：函館競輪場テレシアター

テー マ：「在宅支援チームの看取りケア～その時、私たちにできること～」

目的：6連協協働にて本人家族の想いに寄り添いながら在宅看取りを行った事例を通して、各職種の想いや自職種と多職種の関わりを知ることで、自分自身の看取りケア（やっていてもいなくても）を見つめ直し、その各々の想いがつながることにより地域の看取りケアの支援力の強化を目指す。

対 象：函館市・北斗市・七飯町の医療・介護関係者

座 長：函館市医師会在宅医療医会 会長 函館稜北病院 川口 篤也 先生

内 容：函館脳神経外科指定居宅介護支援事業所 宮城 智美 様
函館市地域包括支援センターよろこび 吉田 千秋 様
訪問看護ステーションフレンズ 阿部 光子 様
ヘルパーステーション友 石川 美和子 様
SOMPO ケア函館昭和 訪問入浴 佐々木 美幸 様
訪問リハビリテーション稜北 宍戸 加奈美 様

参加人数：165名

③入退院支援

「令和7年度 入退院支援連携強化研修会（ガイド編）」
日 時：令和7年11月14日（金） 18:30～20:00 ※予定
場 所：函館医療センター 大会議室
テーク：「ズレてない？その人のイメージ
～視点のズレに気づいて、すり合わせるケア連携へ～」
研修形態：事例をもとに、グループワーク
参加人数：60名ほど

④急変時対応

「令和7年度 函館市医療・介護連携『急変時対応研修会』」
日 時：令和8年2月頃予定
場 所：未定

（3）多職種連携の専門性の向上

出張講座①
日 時：令和7年8月8日（金）
場 所：ライフカレッジ石川公園前（ライフシップ石川公園前内）
テーク：「看取りについて」
参加人数：60名（会場参加者 40名、オンライン 20名）

出張講座②

日 時：令和7年9月10日（水）
場 所：函館協会病院
テーク：「もしもノートはこだて」「はこだて療養支援のしおり」など
在宅療養支援に関する函館の資源、活動について
参加人数：9名

（4）人材育成

センター主催研修会への見学参加（各医療・介護系の学校への案内）

2. センターホームページ「コラム」の掲載について

- 「医療・介護連携マップで検索できる各機関の機能」について

2～3ヶ月毎にコラム掲載中

- 5月23日掲載「ショートステイ」

介護老人福祉施設シンフォニー 施設長 齋藤 祐史 様

- 7月24日掲載「軽費老人ホーム」

ケアハウス菜の花 施設長 可香 洋平 様

- 9月掲載予定「通所リハビリテーション」

介護老人保健施設やわらぎ苑西桔梗 理学療法士 齋藤 亨 様

【令和7年度 多職種連携研修実績および予定表】

	目的（テーマ）および内容	形式				主催/共催	定員	参加者数	時期（実施日時）
		規模（会場）	形態	対象者	レベル				
(1) 相互理解の促進									
①医療関係者向け研修 「退院後、施設でこんな生活をしています～介護老人保健施設、グループホーム編～」	中規模 (函館五稜郭病院) (函館医療センター) (函館市医師会病院)	座学講義	医療・介護関係者	初級～中級	ほ・なセンターと 共催	80名程度	37名 32名	5月22日（木）終了 8月26日（火）終了 R8年2月頃予定	
②介護関係者向け研修 「回復期機能をもった病床のある病院の事情について～思いやりのある連携～」	中規模 (函館競輪場テレシアター) (七飯町文化センター) (函館競輪場テレシアター)	座学講義	医療・介護関係者	初級～中級	ほ・なセンターと 共催	100名程度	106名 44名	6月12日（木）終了 8月21日（木）終了 R8年2月頃予定	
③オープンカンファレンス	中規模	対話体験（事例報告）	医療・介護関係者	初級～上級		100名程度			
④研修会等コーディネート 各関係団体窓口一覧の内容変更の有無を確認	—	—	—	—		—		9月1日（月） 更新済み	
(2) 連携強化									
①連携強化 「第10回函館市医療・介護連携多職種研修会」 「病院・在宅・施設の立場から考える ～在宅（自宅・施設）生活ムリだよねの壁を越えてみませんか？～」	大規模 (函館国際ホテル)	対話体験型 (シンポジウム・GW)	医療・介護関係者	中級～上級	ほ・なセンターと 共催	300名程度		10月18日（土）予定	
②看取り 「令和7年度 函館市医療・介護連携『在宅看取り研修会』」 「在宅支援チームの看取りケア～その時、私たちにできること～」	中規模 (函館競輪場テレシアター)	対話体験（事例報告）	医療・介護関係者	中級～上級	6連協と共に	100名程度	165名	7月18日（金）終了	
③入退院支援 「入退院支援連携強化研修会（ガイド編）」（退院支援分科会主催） 「ズしてない？その人のイメージ～視点のズレに気づいて、すり合わせるケア連携へ～」	小規模 (函館医療センター)	対話体験型 (GW)	医療・介護関係者	中級～上級	ほ・なセンターと 共催	60名程度		11月14日（金）予定	
④急変時対応（急変時対応分科会実務者会議主催） 「令和7年度函館市医療・介護連携『急変時対応研修会』」	中規模	対話体験型 (シンポジウム)	医療・介護関係者	中級～上級	ほ・なセンターと 共催	100名程度		R8年2月頃予定	
(3) 多職種連携の専門性の向上									
各種出張講座等 ①「看取りについて」	小規模 (ライフカレッジ石川公園前)	講師：センター職員	医療・介護関係者	初級～中級	出張講座	20名程度	60名	8月8日（金）終了	
②「もしもノートはこだて」「はこだて療養支援のしおり」など 在宅療養支援に関する函館の資源、活動について	小規模 (函館協会病院)	講師：センター職員	医療・介護関係者	初級～中級	出張講座	5～6名程度	9名	9月10日（水）終了	
(4) 人材育成									
センター主催研修会への見学参加 ※各医療・介護系の学校への案内	随時	見学・座学講義	医療・介護 学生、教員	未経験者		数名		随時	

※ 新型コロナウィルスの状況等により、研修会の中止および開催時期、方法等が変更となる場合があります。

ホームページ上で掲載した研修情報一覧（令和7年4月～令和7年9月）

月	研修名称（団体名）	件数
4月	「医療機関向け虐待対応啓発プログラム BEAMS Stage 1・2」 R7年4月26日開催 (函館中央病院主催)	2件
	2025年度 一般社団法人 北海道精神保健福祉士協会全道大会 「わたしのソーシャルアクション ～精神保健福祉士とともに考える」 R7年5月24日, 25日開催 (北海道精神保健福祉士協会主催)	
5月	「RIFCR™研修会」 R7年6月14日, 15日開催 (函館市, 北海道子どもの虐待防止協会道南支部, 函館中央病院主催)	2件
	函館鍼灸マッサージ師連絡協議会 講演会 「肩疾患のABC これで明日から肩痛が怖くない」 R7年6月14日開催 (函館鍼灸マッサージ師連絡協議会主催)	
6月	令和7年度第1回家族支援ネットワーク学習会 「家族のコミュニケーションを考える」 R7年7月12日開催 (北海道精神保健福祉士協会道南ブロック主催)	2件
	令和7年度北海道保険医会函館地区支部・本部共催 講演会 「なぜ『黒岩恭子の口腔ケア&口腔リハビリ』は食べられる口になるのか」 R7年8月3日開催 (北海道保険医会函館地区支部・本部共催)	
7月	令和7年度地域アドバイザー養成研修 R7年7月17日開催 (北海道保健福祉部福祉局高齢者保健福祉課主催)	5件
	令和7年度ケアラー支援関係機関職員等研修（応用研修） R7年8月19日開催 (北海道保健福祉部／福祉局高齢者保健福祉課, 子ども政策局子ども家庭支援課主催)	
	道南在宅ケア研究会 2025年度会員総会・第58回定例会 「身寄りのない方の権利どのように守るの？」 R7年8月22日開催 (道南在宅ケア研究会主催)	
	令和7年度第1回難病対策専門部会（難病対策地域協議会）実務者研修会 「これであなたも大丈夫！！神経難病患者の支援～ALS患者の支援を中心に～」 R7年9月4日開催 (南渡島保健医療福祉圏域連携推進会議難病対策専門部会)	
	第41回認知症の人と家族への援助をすすめる全国研究集会 in 北海道 「最後まで『私』らしく生きたい」 R7年10月26日開催 (認知症の人と家族の会主催)	
8月	第21回MOPN定例会 「命の現場で考えるACP～武田先生の実体験から学ぶ～」 R7年9月18日開催 (南渡島地域包括緩和ケアネットワーク主催)	6件
	<特別講演会> 「緩和ケアに携わった20年から見えたもの—岩手医科大学の取り組みを中心に—」 R7年9月26日開催 (北美原クリニック主催)	
	第7回日本緩和医療学会 北海道支部学術大会 「原点回帰。～北の医療開闢（かいひゃく）の地から～」 R7年8月30日開催 (第7回日本緩和医療学会 北海道支部学術大会事務局主催)	
	第11回ICNJ北海道支部道南ブロック研修会 R7年11月15日開催 (ICNJ北海道支部道南ブロック主催)	
	令和7年度 歯と口腔の健康・オーラルフレイル講演会 「～食べる楽しみをいつまでも～」 R7年10月25日開催 (北海道渡島総合振興局保健環境部保健行政室主催)	
	第30回 道南摂食嚥下研究会 「薬の服薬方法でお困りの方、いませんか？」 R7年9月24日開催 (道南摂食嚥下研究会主催)	

9月	函館市委託事業：介護人材確保・育成促進事業実施業務職員向けセミナー 「栄養士向けスキルアップセミナー」 R7年11月16日開催 (キャリアバンク株式会社 函館支店主催)	4件
	函館市委託事業：介護人材確保・育成促進事業実施業務職員向けセミナー 「離職防止・人材不足解消セミナー」 R7年11月4日開催 (キャリアバンク株式会社 函館支店主催)	
	函館市委託事業：介護人材確保・育成促進事業実施業務職員向けセミナー 「スタートアップセミナー セミナー1」 R7年10月20日～10月22日開催 (キャリアバンク株式会社 函館支店主催)	
	函館市委託事業：介護人材確保・育成促進事業実施業務職員向けセミナー 「スタートアップセミナー セミナー2」 R7年11月18日～11月20日開催 (キャリアバンク株式会社 函館支店主催)	
合 計		21件

(その他)

函館市医療・介護連携支援センター主催	0件
ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター主催	2件
各団体との共催	1件
函館市医療・介護連携支援センター、ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター共催	5件

名 称	第10回 函館市医療・介護連携多職種研修会
目 的	・在宅生活の支援を検討する上で弊害となっている地域の壁（課題）を多職種で出し合い共有したうえで、本人の想いを叶えるチーム支援力の向上、在宅生活の限界点を引き上げる可能性について共に考えることを目的とする。
目 標	・在宅支援の現状を振り返り共有することで、この地域の壁（課題）を可視化する。 ・本人の想いを叶えるためのチーム支援の工夫とあり方を考える。 ・上記を踏まえ、明日から自分たちができるることを考える。
共 催	函館市（函館市医療・介護連携推進協議会） 函館市医師会（函館市医療・介護連携支援センター、 ほくと・ななえ 医療・介護連携支援センター）
日 程	令和7年10月18日（土） 14：00～17：00（13：30～受付開始） ※研修終了後、関係多職種間の「顔の見える関係づくり」や率直な意見交換を目的とした懇親会を予定 (懇親会は状況により中止となる場合もございます)
会 場	函館国際ホテル（住所：函館市大手町5-10 電話：23-5151）
テ — マ	「病院・在宅・施設の立場から考える ～在宅（自宅・施設）生活ムリだよねの壁を越えてみませんか？～」
内 容	<ul style="list-style-type: none"> • 講演 (座長) 函館稜北病院 副院長 総合診療科科長 川口 篤也 先生 (登壇者) <ul style="list-style-type: none"> ○訪問看護師の立場から 訪問看護ステーションオハナ 管理者 高畠 智子 様 ○退院支援看護師の立場から 函館中央病院 副師長 退院支援看護師 奥山 ちどり 様 ○訪問介護員の立場から 訪問介護ステーション輪 管理者 酒井 雅子 様 ○訪問診療医の立場から 亀田病院 診療部長 清水 平 先生 • グループワーク • 意見交換・質疑応答
参加対象	函館市・北斗市・七飯町の医療・介護関係者
参加人数	300名（グループワーク参加240名、聴講のみ60名） ※定員になり次第、締め切らせていただきますので、お早めにお申込みください。
参加費用	無料（懇親会参加費用は別途掛かります ※金額は4,000円程度）
備 考	アンケート実施

タイムテーブル（案）

令和7年10月18日（土）14:00～17:00（開場 13:30）

●司会：水越様 ●GW 司会：阿部様

●座長：川口先生

●開会挨拶：函館歯科医師会 会長 岩井先生 ●閉会挨拶：函館市医師会 副会長 森下先生

時刻	タイトル	主な講師	時間
13:30	開場	司会 水越様	—
14:00	開会挨拶／趣旨説明	司会 水越様／●●様	5分
14:05	《シンポジウム開始》／座長挨拶	座長 川口先生	5分
14:10	講演①	講師 高畠様	17分
14:27	講演②	講師 奥山様	17分
14:44	講演③	講師 酒井様	17分
15:01	講演④	講師 清水先生	19分
15:20	休憩	司会 水越様	10分
15:30	グループワーク説明	GW 司会 阿部様	5分
15:35	グループワーク	座長 川口先生	50分
16:25	グループワーク発表・意見交換～総評	座長 講師	30分
16:55	閉会挨拶／アンケート依頼／懇親会案内	司会 水越様／森下先生	5分
17:00	アンケート記入、会場移動（懇親会出席者）	—	—
小計			180分
17:30	懇親会	懇親会司会	90分
19:00	（終了）		
合計			270分

役割・グループワークの流れについて（案）

○集合時間

13:00 ~ 総合司会、GW司会、懇親会司会、多職種連携研修作業部会メンバー
順次、ファシリテーターと各グループの司会者との顔合わせ

13:50 ~ ファシリテーターとGW内の司会者と打ち合わせ

○ファシリテーターのペア

- ペア① 京谷様、奴賀様
- ペア② 山上様、室田様
- ペア③ 橋浦様、斎藤様
- ペア④ 益井様、宮城様
- ペア⑤ 川村様、白川様

○役割分担

総合司会 水越様

GW司会 阿部様

懇親会司会 山上様

会場誘導係 宮城様、益井様、斎藤様、室田様

マイク係 白川様、川村様、奴賀様

カメラ係 橋浦様、京谷様

○ファシリテーターから各グループの司会へ渡してもらう物

- ・ファシリテーターとグループ司会者との顔合わせ
- ・司会用の「グループワーク進行上のお願い」
- ・グループワークのルール

グループワークの進め方

○グループワークのねらい

- ・自身が感じる壁について考え、互いに共有することで、在宅支援における地域の課題を把握する。
- ・本人の思いを叶えるチーム支援を実現するために、どのような取り組みを進めるかを考える。
- ・明日から自分たちができることを考える。

○グループワークの内容

- ・(テーマ1) 在宅(自宅・施設)生活ムリだよねの壁について
(自身の経験の中で感じる壁、シンポジストの話しを聞いての気づき等)
- ・(テーマ2) 壁を越えるため実践できること、明日から自分たちができそうなこと
- ・上記のテーマ1・2について司会者を中心に進行してもらい、書記が模造紙に記入する
- ・発表グループは、テーマ1・2及び質問があれば話してもらう

○多職種でのメンバー構成、各グループに司会者をあらかじめ設定する

○グループワーク参加者～●●●名(●人掛け×●●テーブル)

○タイムテーブル

15:30 (5分)	<p>○グループ内での自己紹介をするにあたっての説明 (グループワークの説明：阿部様)：1分</p> <p>○各グループ内、自己紹介：4分(1人20～30秒程度)</p> <ul style="list-style-type: none">・司会は、予め事務局で決めさせてもらっていることを伝える・自己紹介(所属先、職種、氏名)・サイ五郎さんのカードに書いてある質問について一人一言ずつ話してもらう
15:35 (50分)	<p>○グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none">・書記、発表者を決めてもらう・テーマの説明・グループワーク開始・(テーマ1) 在宅(自宅・施設)生活ムリだよねの壁について (自身の経験の中で感じる壁、シンポジストの話しを聞いての気づき等)・(テーマ2) 壁を越えるため実践できること、明日から自分たちができそうなこと
16:25 (30分)	<p>○グループワーク発表・意見交換～総評(座長：川口先生)</p> <p>各シンポジスト：高畠様、奥山様、酒井様、清水先生</p> <ul style="list-style-type: none">・事前に打ち合わせた順番でグループ発表。詳しくは、(発表グループの選定を参照)・発表内容は、テーマ1・2及び質問 川口先生の進行で、発表内容に対し各シンポジストからコメントをもらう・意見交換 この場では非聞きたいという質問のある人に挙手してもらい、その質問に各シンポジストからコメントをもらう・総評 座長、各シンポジストからコメントをもらう

○模造紙と模造紙半分の用紙のイメージ

- ・模造紙には、(テーマ1), (テーマ2)について記入する。
- ・模造紙半分の用紙には、シンポジストや座長に聞きたいことを記入する。

<模造紙>

<模造紙半分の用紙>

<p>「病院・在宅・施設の立場から考える ～在宅（自宅・施設）生活ムリだよねの壁を越えてみませんか？」</p>	<p>(テーマ1) 在宅（自宅・施設）生活ムリだよねの壁について（自身の経験の中で感じる壁、シンポジストの話しを聞いての気づき等） ・ ・</p>	<p>(テーマ2) 壁を越えるため実践できること、明日から自分たちができそうなこと ・ ・</p>	<p>質問用紙 シンポジスト、座長に是非、聞きたいことがありますたら、こちらに記載してください</p>
---	---	---	---

○ファシリテーターの役割

【テーマ1】止まっているグループ、または発言ができない人がいたら介入

- ・各々が感じている支援をするうえでの壁やシンポジストのお話を聞いて壁に感じること等
- ・こんな壁（感想）で良いのか？と思うようなことでも発言の機会をもってもらう。

【テーマ2】止まっているグループ、または発言ができない人がいたら介入

- ・壁を越えるためそれぞれ実践ができる事、明日からでも自分たちができそうなことは何かを考えられるようどんな事だったら始められるのか、明日からできることに限らず、少し先（将来）に向けてできうことでも良いので話してもらえるように促す。
- ・今、自分たちができていることに気づく機会もある事を伝える。（例えば、自身が実践していることだけでなく、他者から提案があったことをどこまでできるのか等）
- ・職種によっては経験の無い場面の話が出ても参加できるように声掛けする。
(シンポジストの話や他の人の話を参考にイメージを膨らませてディスカッションに入つてもらうよう促す)

【全体として気をつける事について】

- ・自身が思う壁やシンポジストの講演内容にある壁についての発言に批判や批評、指導をするようなことがあった場合は適切に介入する。
- ・専門用語のレクチャーなどが長く続くような状況があった場合は適切に介入する。（「そろそろテーマのディスカッションに戻りましょうか」「その話題（疑問）で聞きたいことが出た場合は、全体の意見交換の時間に確認してみてはどうでしょう」等）
- ・特定の人が話し続けるという状況があった場合は適切に介入する。
- ・特定の職種・事業所等の批判や批評にならないように配慮する。

【発表グループの選定】

- ① ファシリテーター●～●人がペアになってもらい●～●グループを担当します。
- ② 各担当グループのうち、ねらいに沿った話ができているグループや、ぜひ全体で共有したいと思われるグループをペアのファシリテーターと相談して1グループを選定する。
- ③ 16：15（グループワーク終了10分前位）になったらファシリテーター席に集まり、選定グループを報告（全5グループになる予定）
- ④ ファシリテーターと座長、センター間で相談して、発表してもらう順番を決める。（時間があれば全5グループ、時間がなければ3グループ程度）

※全体で共有した方が良いと思われる質問等があった場合は、意見交換の場面で対応する旨を伝え、発表に当たったグループは、シンポジスト、座長に聞きたいことについても話してもらう。当たらないグループは、後日センターのホームページにて掲載する旨伝える。

【見 本】

○ファシリテーター

ペア：

選んだグループ番号：

選んだポイント：

グループワーク進行上のお願い

○ファシリテーターと司会者との顔合わせ

- ・各グループを担当するファシリテーターがいます
- ・司会者が進行する中で困ったらファシリテーターへ声を掛けてください。

○テーマ

(テーマ1) 在宅（自宅・施設）生活ムリだよねの壁について

(自身の経験の中で感じる壁、シンポジストの話しを聞いての気づき等)

- ・(テーマ2) 壁を越えるため実践できること、明日から自分たちができそうなこと

○タイムテーブル

15：30 (5分)	○グループ内での自己紹介をするにあたっての説明 (グループワークの説明：阿部様)：1分 ○各グループ内、自己紹介：4分（1人20～30秒程度） <ul style="list-style-type: none"> ・司会は、予め事務局で決めさせてもらっていることを伝える ・自己紹介（所属先、職種、氏名） ・サイ五郎さんのカードに書いてある質問について一人一言ずつ話してもらう
15：35 (50分)	○グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・書記、発表者を決定する ・司会者の進行のもと、(テーマ1)と(テーマ2)についてグループワークする ・書記は同じような意見をまとめたり、追加で出た意見等を模造紙に追記する
16：25 (30分)	○グループワーク発表・意見交換～総評 <ul style="list-style-type: none"> ・座長進行のもと発表グループに選ばれた場合は、(テーマ1)と(テーマ2)ともし質問があった場合は、それも合わせて発表する ・発表グループに選ばれなかったグループも質問がある場合には挙手する

○グループワークの進行について *別紙「グループワークのルール」参照

- ・グループ内で話しやすい雰囲気となるように別紙「グループワークのルール」に記載されている内容を参考にして進めてください。常にこのルールを意識できるようにテーブルの上に置いてもらったり、口頭で伝えたりしてください。
- ・グループ内で1人の方が話し続けているようであれば声掛けをしてあげてください。「そろそろテーマのディスカッションに戻りましょうか」「他の方のご意見も聞いてみましょう」等)

○模造紙と半分の模造紙について

- ・模造紙には、(テーマ1)と(テーマ2)について書記に記載してもらいます。
- ・半分の模造紙には、シンポジスト、座長に是非、聞きたいことがあった場合に記載してもらいます。

グループワークのルール

○グループワークを円滑に進めるために下記のことを心掛けましょう。

テーマに沿って話しましょう

話が脱線しても

必ず（テーマ1）と（テーマ2）に戻りましょう

みんなで話しましょう

「こんな事話していいのかな」と思わずには

どんどんお話ししてください

経験の有無に関係なく

イメージしてみましょう

もしも自分だったら、自分が支援するとしたら

などを想像してみましょう

批判・否定しないように

しましょう

グループ内の人の発言にネガティブな

判断をしないようにしましょう